

台湾第一の温泉 世界三大泥温泉の一つ

関子嶺は大凍山西北側の河岸台地にあり、鬱蒼とした木々に囲まれた自然の中にある。静かな山谷の景色は桃源郷を思わせ、景色と温泉を共に楽しめるとして、台湾ではここだけである関子嶺温泉郷の歌まである。大正時代に生まれ、古賀正男に師事した台湾音楽家一呉晉准は、友人と訪れた関子嶺で湯に浸かり、この地の優美な風景と温泉郷の情緒に心惹かれ、名曲「関子嶺の恋」を創作した。

関子嶺にはもともと原住民平埔族の集落があった。日本統治時代の1898年になり、ここに屯駐した日本兵が白河東北の枕頭山で温泉を発見し、温泉郷へと発展することとなった。1920年出版された「関子嶺の温泉」中では「豊泉」と呼ばれ、四度にわたり「台湾第一の温泉」と記載されている。関子嶺温泉は地下岩層の泥質と鉱物質を含む灰黒色をしているため、「黒色温泉」または「泥巴温泉」とも呼ばれている。鹿児島、イタリア・シシリア島と並び「世界三大泥温泉」と称される。お湯に浸かると泥を塗ったような不思議な感覚が味わえ、美肌効果も期待できるため、特に女性に大人気だ。泉水は飲むこともでき、75℃にもなる源泉は冷水を加えて温度を下げる。温泉郷には多くの温泉旅社が立ち並び、たくさんの外国人観光客も訪れる。

百年の歴史を誇る温泉街を散策

関子嶺周辺の観光スポットは主に、温泉街一帯に集中している。源泉は「火王爺」（不動明王廟）下方の池、宝泉公園内にもある。「好漢坡」は関子嶺では欠かせないスポット。公園横の関子嶺天梯と空中走廊は温泉区と高所にある嶺頂公園をつないでおり、温泉区の環状歩道とつながっている。観光客は高い位置から温泉郷を俯瞰でき、登山客なら関嶺古道をたどり枕頭山の観景平台へと至ることもできる。ここからは嘉南平原が見渡せ、水火同源と碧雲寺へも足を進めることができる。

温泉老街(旧市街)はわずかに100m余り。今でも、素朴でレトロな和風の雰囲気を感じている。老街上の関子嶺大旅社、静泉館はどちらも百年の歴史を誇る老舗旅館。建築物の外観はかつての面影を残している。前身を吉田社と言った静泉館は当地で初めての温泉旅社だった。関子嶺大旅社は日本人が開いた元龍田居で、ヒノキ作りの建物は一世紀に及ぶ温泉郷の栄華の証人だ。旅社の中庭には日本統治時代に植えられた楓があり、秋には紅葉し、うっとりするような風情を見せてくれる。

温泉区横にある「紅葉公園」までは徒歩で約10分。標識に従い石段を上っていく。秋が深まると、緑の木々は紅く染まり、風景が秋色に変わる。地元で「水火洞」と呼ばれる枕頭山麓の「水火同源」は碧雲寺東南方にあり、台湾で最も早く記載された人文地景の一つ。特殊な地質構造のため、崖からは天然ガスが噴出し、水が湧き出している。天然ガスに火をつけると、火が水の中から現われているような奇観を目にできる。



歴史と自然あふれる温泉郷を歩く

台南 関子嶺

関子嶺温泉はおよそ一万年前に形成された。温度は75-82度に達し、硫黄臭と苦味がある。ナトリウム、マグネシウム、硫黄、カルシウム、ラジウム等のミネラルを含む。関子嶺温泉の歴史は長い。日本統治時代に始まり現在まで、この地方にとって重要な観光産業であるばかりか、非常に重要な文化遺産でもある。台湾では北投温泉、陽明山温泉、四重溪温泉と共に「台湾四大温泉」と称された。2012年関子嶺温泉区の29業者は揃って温泉マークを取得した。また今年、関子嶺公共浴場の百周年記念に当たり、それに合わせ、「関子嶺温泉フェスティバル」では記念イベントが企画されている。

